

feature vol.6



2010年1月31日、バドミントン日本リーグ入替戦(東京・立川市柴崎市民体育館)。

日本リーグ2009・2部優勝の日本ユニシスは、1部最下位の三菱電機と対戦。2-0のストレートで勝利して、08年4月の本格スタート以来、2シーズンという最短での1部入りを果たした。

日本ユニシスは、男子チームも日本リーグ2009で3度目の優勝を果たしており、今シーズンは男女アベックVも夢ではない。

20-16。日本ユニシスの、1部昇格ポイントだ。

平山優のロングサービスからのラリー。5球目で平山が相手をフォア奥に押し込むと、三菱電機・木村早紀のクリアーはわずかにエンドラインを割った。

ユニシスが、創部以来最短で1部昇格を決めた瞬間だった。

肩の荷が下りたように、平山が笑う。

「3ゲーム目の途中から(18-10から2点差まで迫られた時には)、「自分」が飛んでしまった気がしました。体がふわふわして自分のものじゃないみたいで、押されるとタマも少しずつ浅くなって……。最後に(自分が)戻ってきてくれたかったです」

そしてこう続けた。

「このチームは、あえて口にしないで、1部昇格という目標を全員が自覚していた。最後までそれがぶれなかったのが、勝因だと思います」



苦しんで、苦しんで、苦しんだ。一発勝負で昇格、降格の明暗が分かれる独特の緊張感もある。ほんのちょっとした風向きの変化次第で、勝利の女神はどちらに微笑むかわからなかった。

2部リーグの優勝を決めたのが、11月23日。今年は2月に男女国別対抗戦「ユーパー杯」のアジア予選があるため、入替戦の時期が例年より3週間ほど早く、入替戦まではちょうど80日だ。チームの準備期間としては、決して十分とはいえなかった。

12月上旬には全日本総合があり、その後も平山、高橋、松友はインド遠征へ。さらに3人は、年明けすぐにナショナルチームの合宿に参加し、そのまま海外遠征(スーパーシリーズ参戦)に旅立ち、帰国は1月24日。



一方、野尻野匡世、打田しづか、栗原文音らは中国での合宿に参加。金森裕子、浅原さゆりは国内で調整と、チームは離ればなれになっていた。

清水文武ヘッドコーチはいう。

「例年なら、12月下旬から1月にかけてはチームで合宿するのですが、今シーズンはそれができませんでした。メンバーが揃うのが入替戦の1週間前だったのですが、海外遠征中に怪我をして帰ってくる可能性もゼロではないわけで、とにかく、選手全員が怪我なく集まってくれることを願っていました」



そして、入替戦当日。対戦相手の三菱は日本リーグ09では未勝利の最下位だったものの、優勝した三洋電機以外からは、いずれも1ポイントをもぎ取っている。つまり実力は、1部の中堅どころと紙一重だ。さらに、入替戦という修羅場の経験もある。ユニシスがいかにナショナルメンバーをそろえる豪華布陣とはいっても、やはり2部リーグのチームを相手にするのはワケが違う。

「相手は、長く1部でやっているチーム。なんとしても残留する、という執念を感じました。対してウチは、日本リーグといっても2部の経験しかありません。そういう経験値の差が、一発勝負の入替戦では出てしまうんですね。普通にやれば勝てると思っていましたが、なかなか普通にさせてくれませんでした」(清水ヘッドコーチ)



一発勝負には魔物が棲む。同時に行われていた男子の入替戦では、ファイナルゲーム19-12でリードしたペアが逆転負けというドラマがあった。

入替戦でのトップバッター(第1復)は高橋礼華/松友美佐紀。ジュースのすえに1ゲームを落としてからの逆転勝利。続く、シングルスのエースとして登場した平山優は、1ゲーム先行するも追いつかれ、ファイナルゲームも18-10の大量リードから一時、2点差とされる展開だ。



複・単・複で争う団体戦では、1マッチの比重がとてつもなく大きい。かりに勝利が見えてきても、そこで安心し、勝ちを意識し、守りに入ると、魔物が足を引っ張る。そうなると、実力差なんてあってないようなもの。平山が、勝利まであと3点から「自分が飛んでいった」のも、魔物に魅入られかけたからだ。だが、スマッシュで19点目を取ってようやく金縛りは解けた。以後も平山は、2点を連取。ユニシスは2-0で三菱を下して、苦しみながらも1部昇格という目標にたどり着いたのだ。



HOME

ソリューション

事例紹介

サステナビリティ

株主・投資家情報

企業情報

採用情報

お問い合わせ



平山優

小さくガッツポーズする平山。選手たちは輪になり、人差し指を突き上げ、小刻みにジャンプする。総立ちの観客席は、だれかれとなく抱き合い、チアスティックを叩くにぎやかな祝福の音が館内に満ちた。



「オーダーは3日前決めました。幸いにも皆、調子がよかったです、非常に悩みましたよ」
清水コーチは安堵の笑顔で打ち明けてくれた。

トップバッターを任された若手ペアは、「ふだんは全然緊張しない」という高橋が、「めずらしく緊張した」と言い、17歳にして大役を任された松友も勝負どころで冷静なラケットワークを見せ、「苦戦はしたが、よくやっていた」と清水コーチも合格点を与えている。



松友美佐紀



高橋礼華

シングルスに勝って昇格を決めた平山は「最後の連続失点などが反省点です。1部で戦っていくうえでの課題ですね」と厳しく自己評価したが、「目標が高いからこそ。ここはあくまで、通過点です」(阿部秀夫・シンボルススポーツ推進室長)。

ハラハラドキドキの昇格。

漂泊の自由律俳人・種田山頭火の句『まっすぐな道でさみしい』を思い出した。

反語的な解釈でいえば、目的地までの道のりがすんなりいきすぎても、むしろ拍子抜けする。

それよりも、紆余曲折や起伏があるからなおさら、ドラマチックな味わいが出る、ということじゃないか。

ユニシスの1部昇格も、平坦ではなかったからこそ、たどり着いた喜びが大きいのかも知れない。



山頭火には『わかれてきた道がまっすぐ』という句もある。

苦しみ抜いて手にした1部リーグ昇格だが、その通過点を過ぎて、振り返ってみればユニシスは、まっすぐ、最短距離で、日本への道を歩んでいる。



HOME

ソリューション

事例紹介

サステナビリティ

株主・投資家情報

企業情報

採用情報

お問い合わせ



優勝後、ほとんどの選手が口にしたセリフがある。
「早く1部で戦いたい。もちろん目標は初出場で初優勝です」

最短ではあるが、選手たちにとっては待ちに待った昇格。
日本リーグ1部の開幕は、10月10日だ。



Text : Nobuyuki Yo

Photo : Toshihiro Kitagawa

- [feature vol.5 日本リーグ1部昇格への道 前編 >](#)

[feature backnumber](#)

[チームについて](#) [選手・スタッフ紹介](#) [試合結果](#) [ニュース](#) [ルール解説](#) [LINK](#) [お問い合わせ](#)

企業情報

BIPROGYについて

[トップメッセージ](#)

[会社概要](#)

[Vision2030・経営方針（2021～2023）](#)

[コーポレートブランド](#)

[グループ会社](#)

[拠点所在地](#)

[組織図](#)

[役員一覧](#)

[企業理念](#)

[企業行動憲章](#)

[調達・購買に関する指針等について](#)

[BIPROGYグループの歴史](#)

[ニュースリリース](#)

[株主・投資家情報](#)

[採用情報](#)

BIPROGYの企業活動

[サステナビリティ](#)

[広告宣伝活動](#)

[セミナー/イベント](#)

[出版物](#)

[デジタルメディア BIPROGY TERASU](#)

[実業団バドミントン部](#)

[BIPROGYグループアンバサダー](#)

[東京デイズニールランド「エレクトロカルパレード・ドリームライツ」](#)

[東京デイズニールシー「フォートレス・エクスプロレーション」](#)

BIPROGYの研究活動

[BIPROGY総合技術研究所](#)

[Technology Foresight](#)

[技術論文BIPROGY技報](#)

[BIPROGY研究会](#)

[ご利用にあたって >](#) [個人情報保護について >](#) [情報セキュリティ基本方針 >](#) [ソーシャルメディアポリシー >](#) [サイトマップ >](#)



Copyright © 2023 BIPROGY Inc. All rights reserved.



TOP